

## 『神辺ハイタッチ』

～各社の経営をつなげ、無限の可能性を生み出そう～

かつて、青年部の理事会・例会でハイタッチをしたことで変わった空気感が忘れられません。たったこれだけのことで、恥ずかしさと共に、今の自分(小さなプライド)を捨て、少しでも未来の自分に近づきました。過去の自分を大切にすると、新しい自分を創れません。本年度は、人と人をつなげるハイタッチの可能性を信じ、多くの部員に広げていく仲間づくりを強化していくことをベースに事業を進めていきたいと考えています。

また、私自身、近年頻発する自然災害に際して、一人・一社では何もできなくても、組織・業界団体のつながりの中で乗り越えられる困難が少なからずあると感じ得ました。ただ、その為には、「困ったときはお互い様」と言えるような関係作りが、日頃の活動を通じてじっくりと形成されていることが前提条件になるということも同時に感じました。

神辺町商工会青年部には、異業種の会社を経営する多くの仲間がいます。何事にも果敢に挑戦する若い心を持った青年経済人が、これまでに培った部員同士の絆を今こそ最大限に活かして、自由にアイデアを出し合い、大胆に試行していくことで、無限の可能性を生み出していきましょう。個社単独では実現が困難なことも、連携することで克服できる可能性があると感じています。点と点を線で結び、面を創り、多面体で社会ニーズに応えるチカラを身につけていきましょう。

### 【ハイタッチするなかまづくり】

なかまづくりが青年部活動の基本です。まちづくり事業や経営力向上事業の基礎と捉えて事業を推進しましょう。オフの場においても積極的に交流し、お互いの個性を恥ずかしがらず、見せ合い、確かめあい、認めあい、各人・各社の特徴や強み・弱みを深く知っていき、卒業後も青年部で良かったと思える時空を共有していきましょう。本年、親会にあたる神辺町商工会は60周年を迎えます。多くの関係者と喜びを分かち合うと同時に、青年部としての存在感を示していきましょう。また、備南地域協議会に出向する仲間を通じて、近隣単会の青年部員の方々へとハイタッチの輪を広げていきましょう。

### 【つながりを活かした経営力向上】

私は、事業継承したばかりの頃は夜も眠れないほど、意味もなく不安感を抱いていました。そんな時は銀行出身の青年部のなかまから助言をもらうために、恥ずかしながら自社の決算書を見てもらったり、補助金が採択された青年部のなかまに事業計画書を見せてもらったりしながら、その都度、自分の弱さを克服してきました。青年部のなかまと商工会・指導員とのつながり、国・県・市とのつながり(制度)も活用し、経営力の向上に励みましょう。

また、現在の本業を活かしつつ、少しそこから離れて、自分の趣味や夢をベースにした仕事ができたら良いと思いませんか。例えば、50歳で2つ目の肩書を持ち、60歳になったときに3つ目の肩書を持った自分はどうでしょうか。リタイアを迎えた時には、その時の状況に合わせて仕事を選べるような、自由度を高めることが

できたらどうでしょうか。青年部のなかまづくりを活かして未来を見据えながら議論することで、自社では当たり前すぎて見過ごされていた価値を再発見してもらったり、新たな連携サービスを生み出すヒントが掴めたりするかもしれません。なかまと一緒に可能性を模索しましょう。

### 【つながりを活かしたまちづくり】

昨年度、「かなべガールズコレクション(KGC)」の開催を通じて、多くの感動を届けることができ、また一方では、乗り越えるべき課題が整理されました。本年度は、地域とのつながり、地域の商業施設とのつながり、他企業・他団体とのつながりを活かして、届ける感動を最大にすると同時に、経済的に持続可能な枠組みを新たに生み出していかなばなりません。その為にも、本事業を通じて「未来ある子ども達に夢のある体験を届ける」ことの意義を私たち自身でしっかりと語り、多くの共感者を増やし、持続可能な繁栄のまちづくり・まつりづくりに挑戦して参りましょう。

### 【つながりを活かした運営】

近年、豪雨災害やウィルス感染拡大など、生命を脅かす危機が頻発しています。困難な状況にあっても活動継続の為には、WEB会議をはじめ、新しい可能性を探り込んでいきましょう。また、青年部活動には多くの魅力があります。感動を伝え続けることで、青年部の想像(創造)力の源である個性ある仲間を増やしていきましょう。そして、親会会員や青年部OBの皆様、また神辺に所縁ある企業からも、「うちの社員を入部させたい」「青年部活動に協力したい」と言ってもらえる様、青年部活動と発信と拡大をつなげた運営で一石三鳥の利を次世代に引継いで参りましょう。

## 行動指針

1. (自分)「何事もまずやってみる」自分でいよう

自分の感受性のアンテナを大切にしよう

まず、子どものように無邪気にやってみよう。

大人なのでPDCA(※)は大事。(※Plan計画、Do実行、Check評価、Action計画の改善)

でも、まず小さなDoからはじめよう。経験からの学びが知恵となる。

そして、できたら...

「好き」を理由に仕事をしよう、「好き」を理由に仕事をしてもらおう。

「好き」に苦労はない。さらに、

感動する自分の心を大切にしよう。感動することが多い自分でいよう。

感動をシェアしたい気持ちが仕事の土台になる。(義務感の仕事は続かない。)

## 2. (なかま) 仲間に話して、自分の考えを整理しよう

仲間同士でいいところを伸ばそう

議案が未完成でも恥ずかしくてもいい。思い切って仲間に話を聞いてもらおう。

いつの間にか、一人で抱え込まないでください。

いつの間にか、独りよがりになってしまわないように、

仲間に意見を求めてみよう。

委員長は、委員会を活用して話を聞いてもらい、今の自分を整理してもらおう。

委員会メンバーの仲間に、目線を合わせ、心をよせ、助けを求めよう。

部員の個性を上手く引き出すことが、委員会・青年部全体の成長につながる。

- (社会的存在) 人生の仕事を見つけよう

地域のリーダーとしてもう一度会いたい自分になろう

仕事とは、「今」と「未来」をつなげる矢印。

そして「過去」の延長線上に「未来」はない。

リーダーの役割は、「未来」の姿を表現すること。

そして、どうやってその「未来」を実現していくか手順を伝えること(...難しいね)

どうせだったら、自分がやりたいこと、

自分にしかやれないことを人生の中で見出したい。

委員会メンバーと「未来」を語り、時間をかけて実現の道を見つけ出そう。

与えられる人から与える人へ。憧れのあの人のように、自分を成長させよう。

